

静岡のシカ問題と捕獲

Q & A



静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター
ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ

2013年3月版

目 次

I. はじめに	2
II. シカってどんな動物？	
Q 1. シカはどのような動物ですか？	3
Q 2. 富士と伊豆のシカはどのような違いがありますか？	4
Q 3. シカはどこにいるの？	5
Q 4. シカの行動範囲は？	6
Q 5. シカは山に食べ物が無いから、里へ出てくるの？	7
Q 6. シカはいつ活動しますか？	8
Q 7. シカはどのような環境が好きですか？	9
Q 8. シカは何をどれくらい食べますか？	10
III. シカ問題とは？	
Q 9. シカは増えているの？	11
Q10. シカが増えるとどのような問題が起こりますか？	12
Q11. シカが増えると自然林ではどのようなことが起きますか？	13
Q12. シカによる被害はどのような要因で増えますか？	14
Q13. シカの被害はどうすれば防げますか？	15
Q14. 自分の土地に被害を与えるシカを自分で捕まえてよいですか？	16
Q15. シカから感染する病気はありますか？	17
IV. シカの捕獲について	
Q16. 1年間にシカは何頭捕獲されているの？	18
Q17. 被害を防ぐために効果のある捕獲の仕方は？	19
Q18. シカを減らすために効果のある捕獲の仕方は？	20
Q19. シカを捕獲するにはどんな方法があるの？	21
Q20. シカを捕獲するために必要な資格や手続きは？掛かる費用は？	22
Q21. シカの捕獲は難しい？わな捕獲後に安全に止める方法は？	23
Q22. シカがたくさんいるところを探す方法は？	24
Q23. 捕獲の効率を高める方法は？	25
Q24. シカ肉の特徴は何ですか？	26

I. はじめに

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センターでは、農林産物や森林生態系への食害が県内で急増し、深刻化するニホンジカ（以下「シカ」とする。）への対策に資するため、基礎的な生態を明らかにして、効率的に個体数を削減する技術を開発することを目的に、平成 22 年度から 24 年度まで「ニホンジカ低密度化のための管理技術の開発」というテーマで研究に取り組んできました。

本冊子は、多くの方に、静岡のシカの生態や被害状況、必要な対策について正しく理解していただくため、これまでの研究成果を基に作成しました。

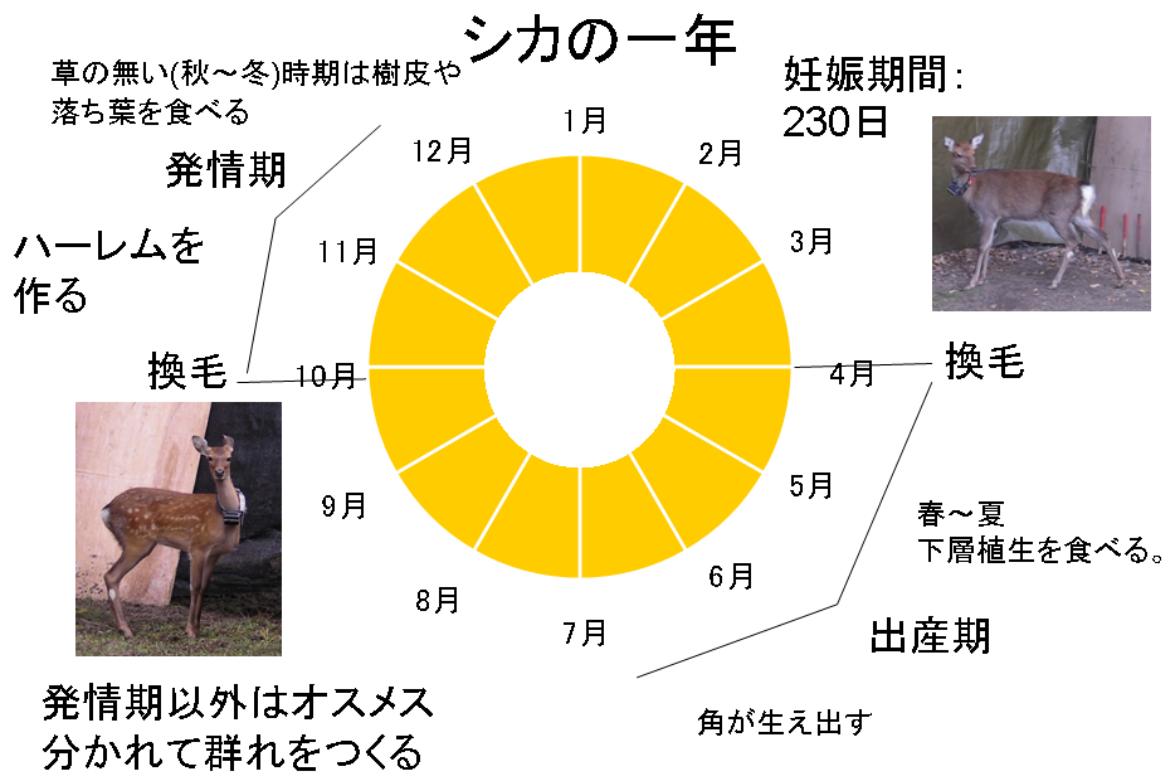
今後、シカ対策への理解が広がり、新しい取組に繋がることを期待しています。

ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ
大橋正孝・大場孝裕・大竹正剛・山田晋也

Q 1. シカはどのような動物ですか？

A 1. 森林性の草食動物で、発情期以外はオスメス分かれて群れを作ります。

ニホンジカ（学名：*Cervus nippon*）は、1年間の間に2回換毛します。春ごろに換毛する夏毛は鹿の子模様（茶褐色に白の斑点）ですが、秋ごろに換毛する冬毛には斑点はなく、春毛に比べて暗い毛色になります。発情期には有力なオスがハーレムを作りますが、それ以外の時期はオスメス分かれて群れを作ります。成獣のオスには角がありますが、毎年生え変わり、4歳ごろまでに最大の大きさの角が生えるようになります。これに対して、カモシカ（ウシ科）の角は生涯生え変わりません。メスの妊娠期間は約230日で主に5～6月に1頭を出産します。



Q 2. 富士と伊豆のシカはどのような違いがありますか？

A 2. 体の大きさ、遺伝的にも違うことがわかっています。

捕獲したシカを測定した結果、富士と伊豆のシカでは、富士の方が大きい傾向がありました。大きさが異なる要因として、生育環境や栄養条件が異なることが考えられますが、具体的に明らかになっていません。

富士・伊豆の体重比較(H20-23捕獲個体の平均)

地域	成獣オス	成獣メス
富士	67kg	52kg
伊豆	58kg	46kg

伊豆と富士では遺伝的に異なる個体群であることも明らかになっています。なお、大きさが遺伝的な要因によるものなのかは不明です。

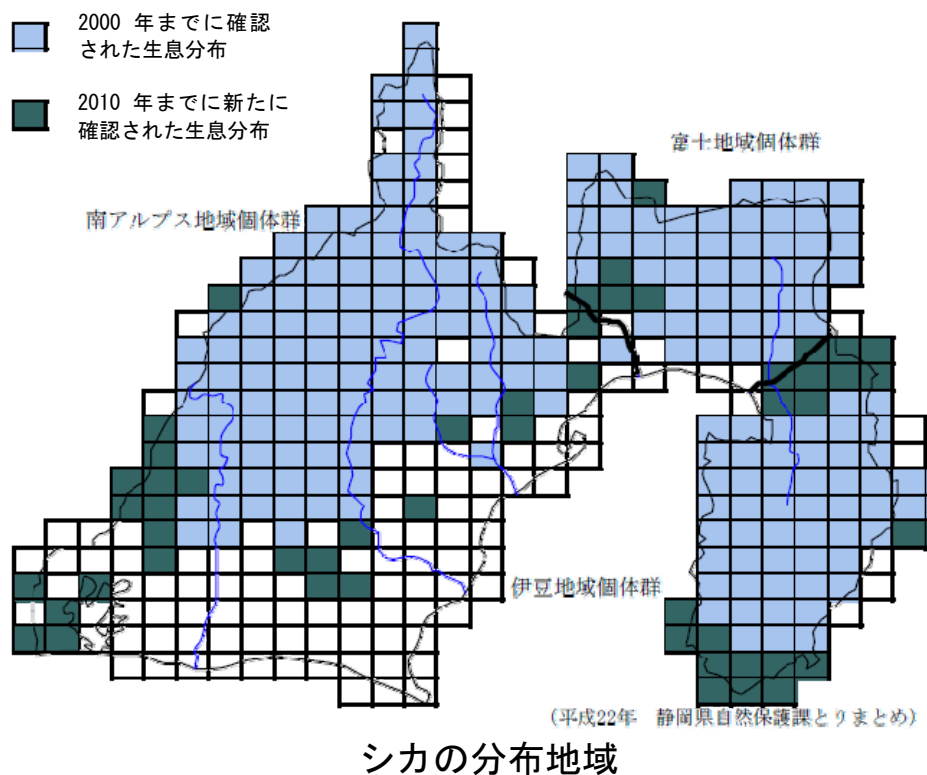


図 メスの遺伝子タイプ(ミトコンドリア DNA)の分布図

Q 3. シカはどこにいるの？

A 3. 市街地から離れた森林内に生息しています。

静岡県内のシカの生息分布地域を調べた結果、市街地から離れた森林に分布し、近年、分布が拡大する傾向が見られています。人間が活動している昼間は森林内で過ごし、夜は森林に近い開放的な場所にてでています。そのため、ほとんどシカを見ることはありません。森林内の生息密度は伊豆で約35頭/km²、富士で約20頭/km²と高い状態です。



Q 4. シカの行動範囲は？

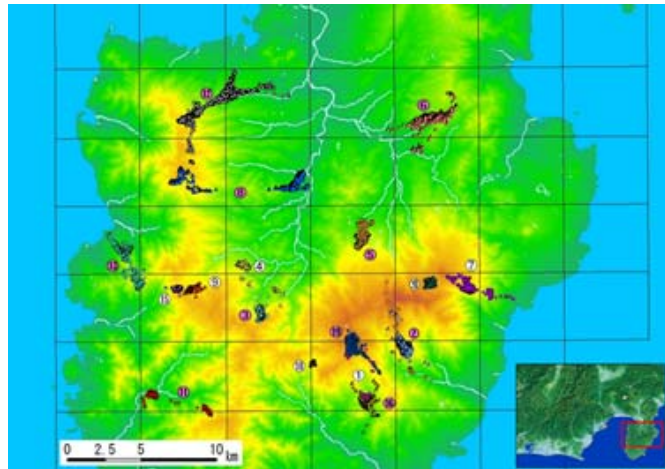
A 4. 伊豆半島のメスジカは平均 54ha の範囲で生活しています。

伊豆半島では、17頭のメスジカにGPS首輪を装着して追跡しました。この結果、8ヶ月以上追跡できた10頭の行動圏は平均54haで、季節移動は行っていませんでした。

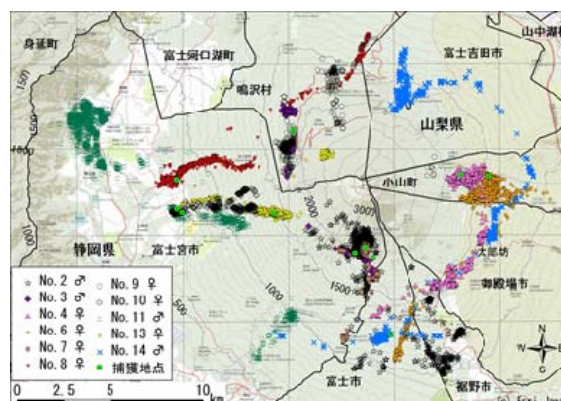
一方、富士山では、11頭にGPS首輪を装着して追跡しました。富士山のシカは季節移動を行い、1年以上追跡できたメスジカ4頭の行動圏（平均148ha）は、伊豆半島のメスジカの約2.5倍でした。また、半年以上追跡できたオス3頭の行動圏は平均260haで、オスの行動圏がメスより広い傾向にありました。



GPS首輪を付けたメスジカ



メスジカ17頭の行動範囲（伊豆半島）



メスジカ11頭の行動範囲（富士山）

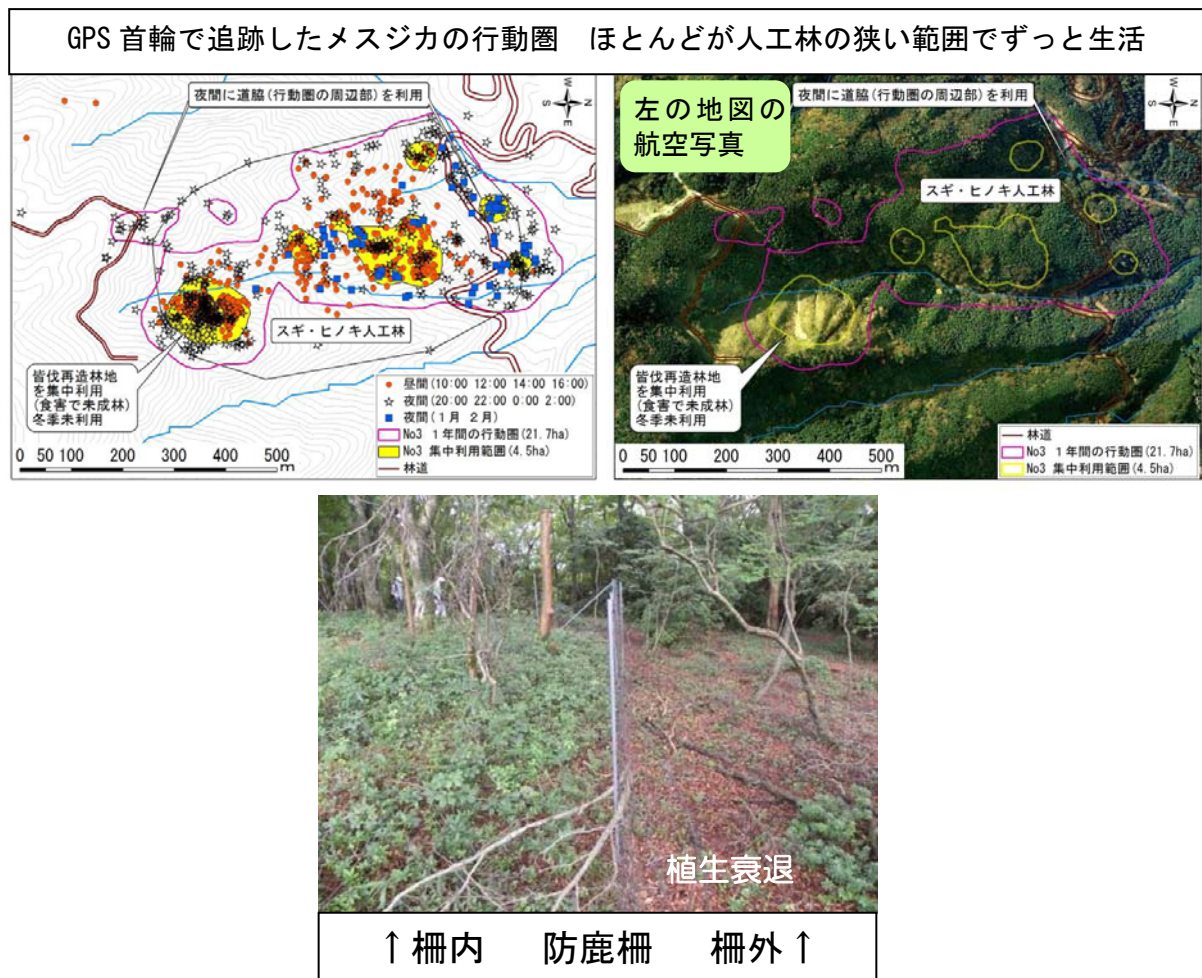
Q 5. シカは山に食べ物が無いから、里へ出てくるの？

A 5. 違います。田畑、果樹園等の農作物は、シカにとってもおいしく、魅力的で、誘引されるからです。

伊豆半島の63箇所の森林で、平成19～21年度に生息密度を調査したところ、平均約0.3頭/haの高密度でシカが生息していました。個体数の増加とそれに伴う分布拡大により、農作物を食べるシカが増加しています。

また、伊豆半島のメスジカの行動範囲は狭く、追跡個体のほとんどが山で生活し、里へは出て行きませんでした。

さらに、森林内に防鹿柵を設置すると、柵の内と外で植物の量に差が生じており、シカの採食により植生が衰退していることがわかりました。



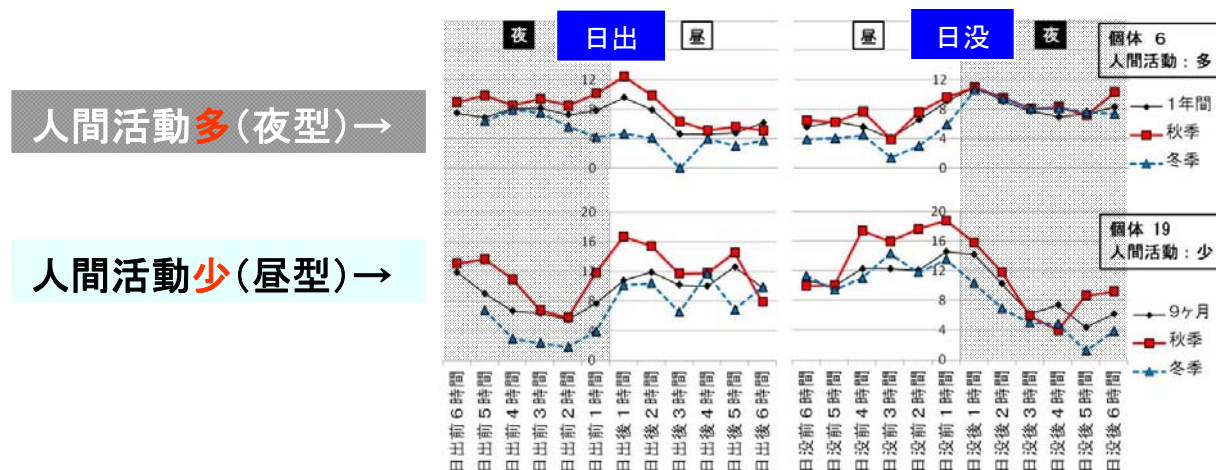
Q 6. シカはいつ活動しますか？

A 6. 基本は薄明薄暮性です。人間活動に応じて変化します。

活動量を記録する首輪をシカに装着して調査した結果、日の出1時間後と、日没2時間前～日没1時間後に最も活発に動いていました。このような薄明（明け方と薄暮）の間に、主として活発になる生き物の行動パターンを「薄明薄暮性」と言います。夜行性、昼行性に対する言葉です。

また、人間の活動が多い場所を利用するシカは、夜間の活動量が多く、逆に人間の活動が少ない場所を利用しているシカは、昼間の活動量が多くなる傾向も認められました。

さらに、冬季（12～2月）は活動量が減少し、秋季（9～11月）は活動量が増加することもわかりました。秋にたくさん食べて冬に備え、冬はあまり動かないでエネルギー消費を抑えているのだと思います。



メスジカの活動量の変化

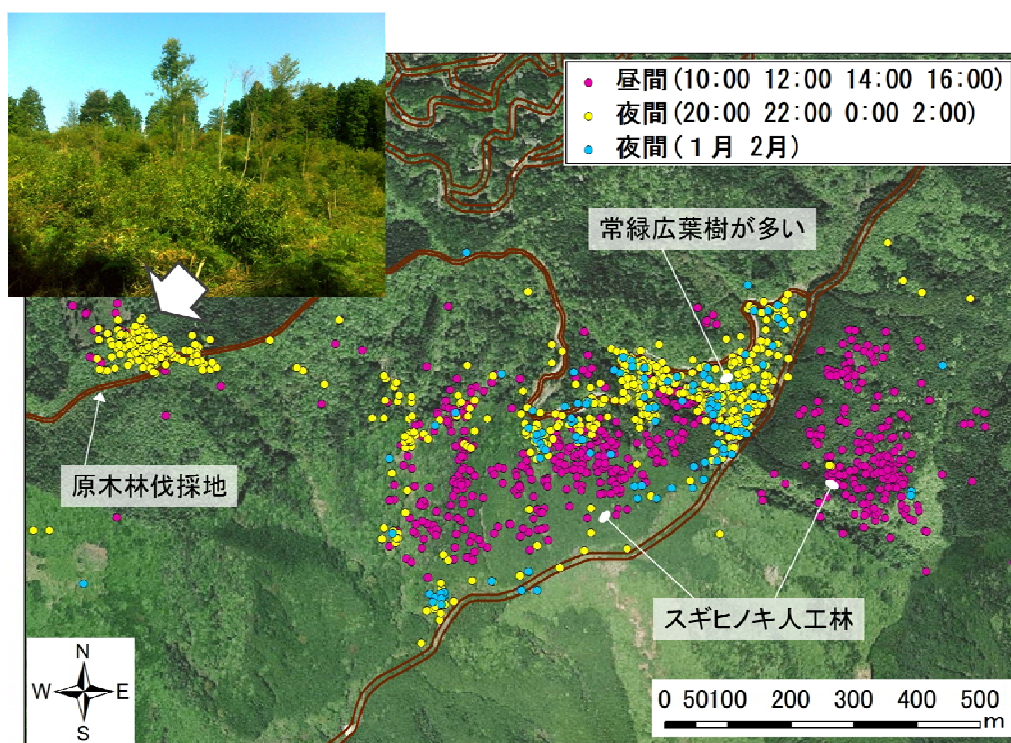
※縦軸は1分間に首輪が揺れた回数（≒活動量）の平均値

Q 7. シカはどのような環境が好きですか？

A 7. 森林に近接した開放的な環境が好きです。

伊豆半島のメスジカの多くは、口が届く範囲の植物が多い開放的な環境（伐採地、ササ草原、ゴルフ場、道脇など）を餌場として利用していました。そして、道路から少し離れた針葉樹人工林内で休息していました。

ただし、冬に、開放的な環境で食物となる緑葉がなくなると、森林内で常緑樹の落葉などを採食しているようでした。



GPS首輪で追跡したメスジカの行動圏（一例）

※黄色い点は夜間にいた場所（約1年間。1日4回測位）。このうち1月と2月（冬）にいた場所を水色の点で図示。

Q 8. シカは何をどれくらい食べますか？

A 8. シカの口の届く範囲の下草や葉のうち、好きなものから食べていき、1日3-5kg食べます。

シカは口の届く高さ（地上高1.6m前後）までの下草や葉を食べて生活していますが、私たちと同じように好き嫌い（嗜好性）があります。

野外では、イネ科等の草本類、ササ、アオキやイヌツゲなどの木本類を好んで食べます。農作物は全般的に好みます。一方、アセビなどの有毒植物やマツカゼソウなどは嫌います。自分の行動圏の中で歩きまわり、これら植生を薄く満遍なく食べていると考えられます。

飼育試験から、概ね1日3-5kg食べることがわかりました。



図 森林内のシカの代表的な嗜好種・低嗜好種・不嗜好種

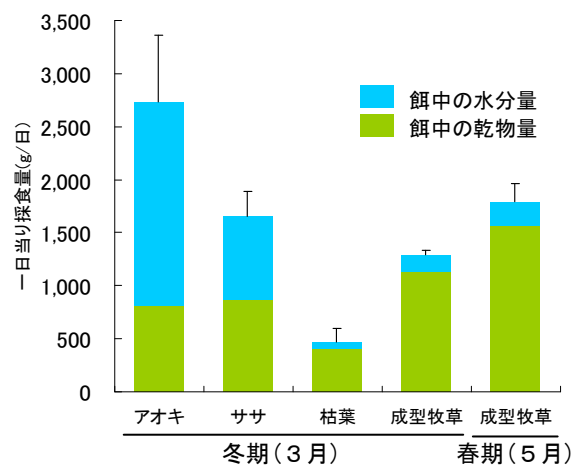


図 メスジカ(40kg)に異なる餌を与えた際の採食量・季節変動

Q9. シカは増えているの？

A9. 10年前と比較すると増加傾向にあります。

戦後、乱獲によりシカが減少したため保護政策がとられました。その後、シカは少しずつ増加しました。平成13年度から伊豆地域でシカの生息密度を調査した結果、捕獲頭数は増加していますが、10年前と比べて増加傾向が見られ、個体数の減少には至っていません。捕獲したシカを調査した結果から、2歳以上のメスの妊娠率が7割以上、メス1頭の生涯妊娠数は約2～3頭と増えやすい状況にあります。

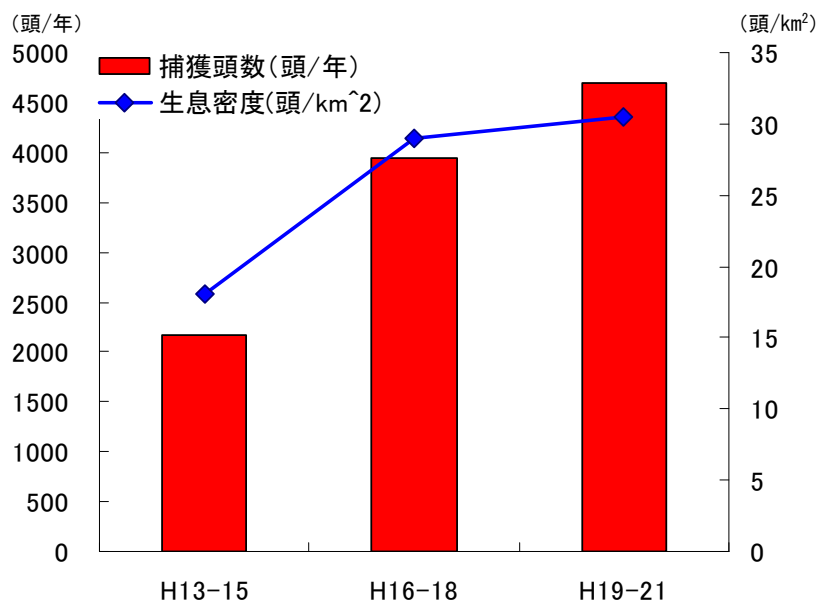


図 H13—H21 年度の生息密度と捕獲頭数 (伊豆)

表 H16～H21 年度捕獲個体の平均寿命・
2歳以上のメスの妊娠率 (伊豆)

捕獲年度	オス平均寿命 (歳)	メス平均寿命 (歳)	2歳以上のメス 妊娠率 (%)	生涯妊娠数 (頭)
H16	3.72	3.17	83	1.6
H17	3.05	4.12	85	2.2
H18	4.25	4.55	87	2.4
H19	3.98	5.20	93	2.8
H20	4.14	5.42	83	2.6
H21	4.40	4.82	75	1.9

Q10. シカが増えるとどのような問題が起こりますか？

A10. 農林業被害、森林被害、交通事故が起こります。

シカは年々増加しながら分布域を拡大しており、数年前から人が生活している場所にも出没するようになりました。このような地域では、様々な被害が増加しています。特に静岡県東部を中心に、県下全域で同様の傾向がみられます。

農業では、農作物(稲・麦、豆類、牧草、果樹木、野菜、牧草など)が食べられる被害が報告されています。

林業では、特用林産物(わさび、しいたけ)の食害が報告されています。スギ・ヒノキの林では、若木の芽や葉が食べられることによる成長の阻害や成木の樹皮剥ぎによる材価の低下が問題となっています。

自然林では、植生の衰退、また、高山植物の消失が懸念されています。

さらに、伊豆や富士山麓の主要道路では、交通事故が増えています。

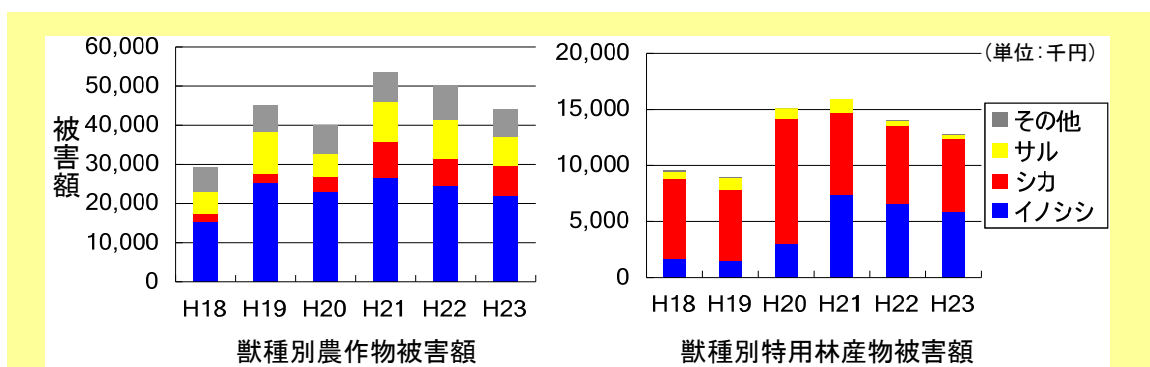


図1 県内の獣種別農業被害状況内訳(県農山村共生課調べ)



図2 シカによる農林業被害の実態

Q11. シカが増えると自然林ではどのようなことが起きますか？

A11. 植生が単相化し、さらに衰退・消失していきます。

自然林内では、アオキなどの嗜好種から優先的に食べられます。生息密度が低いときには、植物の再生力でバランスも取れていますが、密度が高くなると、くり返し食べられ、植生は、衰退していきます。

嗜好種が衰退・消失すると次に好きな種が食べられていき、それらが続くことで、やがてシカの口の届く範囲の植生が消失し、“ディアライン(シカの採食圧によりできる明瞭なライン)”が形成されます。

気候条件の厳しい環境(高山など)では、下層植生の消失で土壌が流出し、最終的に森林が荒廃してしまいます。



←ディアライン

図 過剰な採食圧によるディアラインの形成

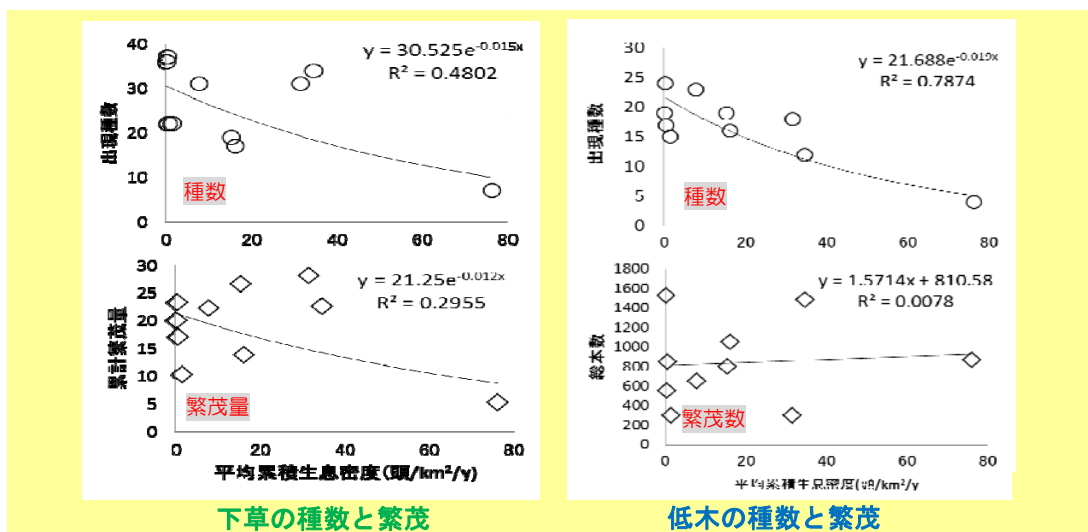


図 シカの生息密度と下層植生の種数・繁茂との関係

生息密度が高くなると、累積的な影響により、下草は種数と繁茂量ともに衰退しますが、低木については繁茂量が変化せず種数が減少し、単相化していきます。

Q12. シカによる被害はどのような要因で増えますか？

A12. シカの生息密度や季節ごとの行動、周辺の環境が要因となり被害が増えます。

農作物被害を起こすシカは、昼間は森林の中で生活し、夜間に農地に侵入します。このため、被害は、森林に近い農地の方が多くなる傾向にあります。

また、森林に隣接した牧草地などの草地環境には、多くのシカが夜間、集中し採食しています。4月の夜間には、富士朝霧地域一帯で1,070頭のシカを牧草地やその周辺で確認しています。

一方、主な生息場所である森林のうちスギ・ヒノキ林では、1頭/km²未満でも長い間には樹皮剥ぎが起こることがわかりました。また、森林の周辺にまとまった草地環境があると、そこに集まるシカの影響で樹皮剥ぎ被害が増大することが確認されています。

交通事故も同様に、伊豆や富士の森林に近い主要道路で多く、農業被害と同様、シカの動きが活発になる春(出産期前)と秋(繁殖期)に急増する傾向にあります。



図 夜間牧草地で群れるシカと牧草の被害



図 樹皮を剥ぐシカとヒノキ剥皮被害

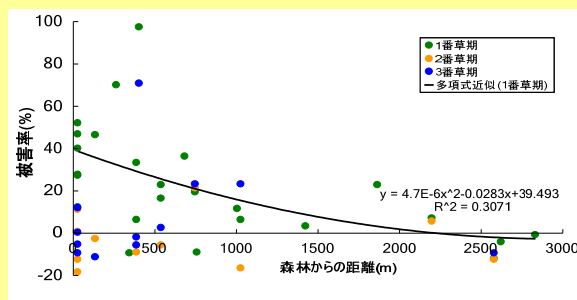


図 森林境界線からの距離と牧草被害
森林から近いほど被害が多い

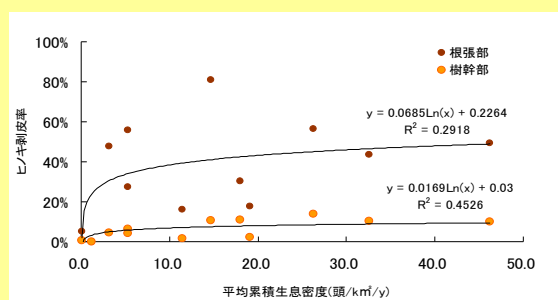


図 シカの生息密度とヒノキの剥皮被害
密度が低い段階から被害が発生

Q13. シカの被害はどうすれば防げますか？

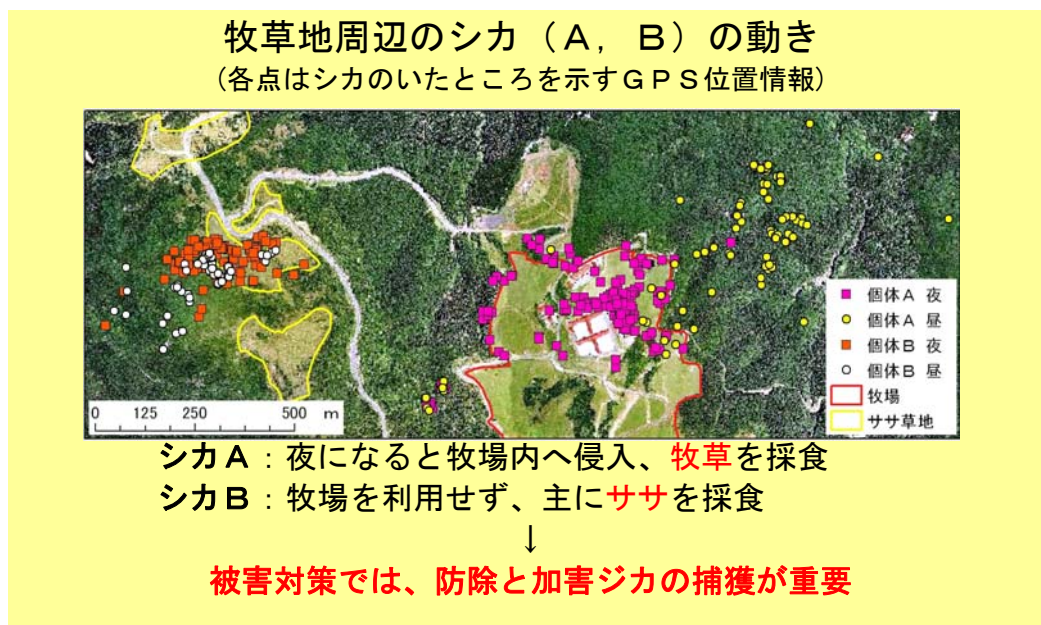
A13. 「防除」と「捕獲」のどちらが欠けても防げません。
また、どちらも地域の連携が不可欠です。

最新の調査から、被害は、特定のシカたち(加害ジカ)が、起こしていることがわかりました。

まず必要なのは、今起きている被害を“防除”することです。防除には、金網柵などの物理的防除柵と、電気柵のような心理的防除柵があり、それぞれの長所短所を使い分けて防ぎましょう。また、柵を設置するとシカはその柵に沿って移動し、隣の農林地に被害を与えるようになりますので、地域で連携して防除する必要があります。

同時に“加害ジカ”を“捕獲”し、被害の根源を断つのも不可欠です。そのために、地域でシカの被害と出没状況の情報を共有しましょう。市町への相談や捕獲従事者へ貴重な情報源になります。

さらに、次なる加害ジカを作らないように、シカの数“コントロール”する必要があります。そのため県では、特定保護管理計画を策定し、増える要因となるメスジカの個体数のコントロールを行っています。



Q14. 自分の土地に被害を与えるシカを自分で捕まえてよいですか？

A14. 許可なしには捕まえることはできません（違法）。

鳥獣保護法上、自らの土地における被害においても、許可無く捕獲することはできません。但し、以下に全て当てはまる場合には、例外的に狩猟免許及び狩猟登録不要で捕獲が許されています。

①対象者：**農林業者**

→農作物又は林産物の売り払いによって一定の収入を得て生計を立てている者。専ら自家消費のために作物を栽培している者は含まれない。

②目的：**農林業被害の軽減**

③方法：**囲いわな**

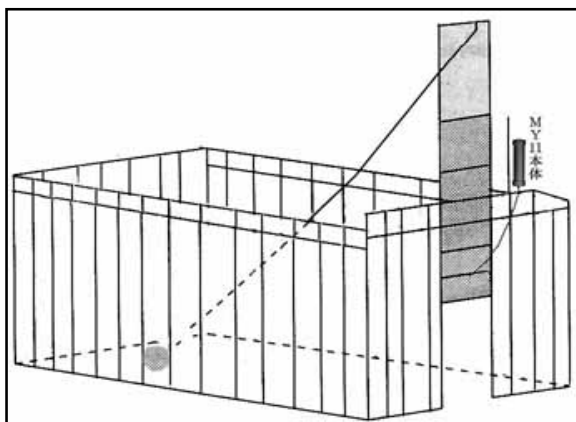
→柵などで囲われた、天井が空いている構造であること

④期間：**狩猟期間内（11月15日～翌年2月15日まで）**

⑤対象動物：**狩猟鳥獣**

種類によっては、1日あたりの捕獲頭羽数に上限がある。

⑥設置場所：**自らが所有する土地で鳥獣の捕獲が禁止されている以外の場所。**原則として農林業者が自ら所有する土地のうち、農林作物被害が発生し、有害鳥獣捕獲を行う必要性のある場所。



一般的な囲いわなの構造

Q15. シカから感染する病気はありますか？

A15. はい。シカやシカに寄生するダニが持つ病原体に感染する危険性があります。

捕獲したシカを検査したところ、病原性大腸菌や豚丹毒菌を保有する可能性、また、シカに寄生するダニが日本紅斑熱等にかかる病原体を保有している可能性が明らかとなりました。感染を防ぐために下図の対策を採る必要があります。

表 県内のシカが保有する病原体のスクリーニング検査結果

対象者	病原体	感染経路	主な症状	検査手法	陽性/検査数(%)	リスク評価
捕獲	豚丹毒菌	創傷感染	皮膚疾患(類丹毒) 敗血症	抗体検査	168/214 (78.5%)	リスク有
	紅斑熱群リケッチア*	ダニ媒介	高熱、発疹	抗体検査 遺伝子検査	65/88 (73.9%) 0/105 (0.0%)	リスク有
	アナプラズマ・ファゴサイトフィルム*	ダニ媒介	インフルエンザ様、 発熱、下痢	抗体検査 遺伝子検査	22/88 (25.0%) 0/105 (0.0%)	リスク有
食肉利用	病原性大腸菌 (VERO 毒素産生)	糞口感染	血様、水様下痢、 嘔吐等	糞培養→ 遺伝子検査	24/146 (16.4%)	リスク有
	サルモネラ	糞口感染	血様下痢、腹痛	糞増菌培養	0/201 (0.0%)	低リスク
	カンピロバクター	糞口感染	水様下痢・嘔吐	糞分離培養	0/201 (0.0%)	低リスク
	トキソプラズマ	経口感染	インフルエンザ様、 時に流産	抗体検査	8/248 (3.2%)	低リスク

※ 静岡県立大学 大橋典男教授 情報提供

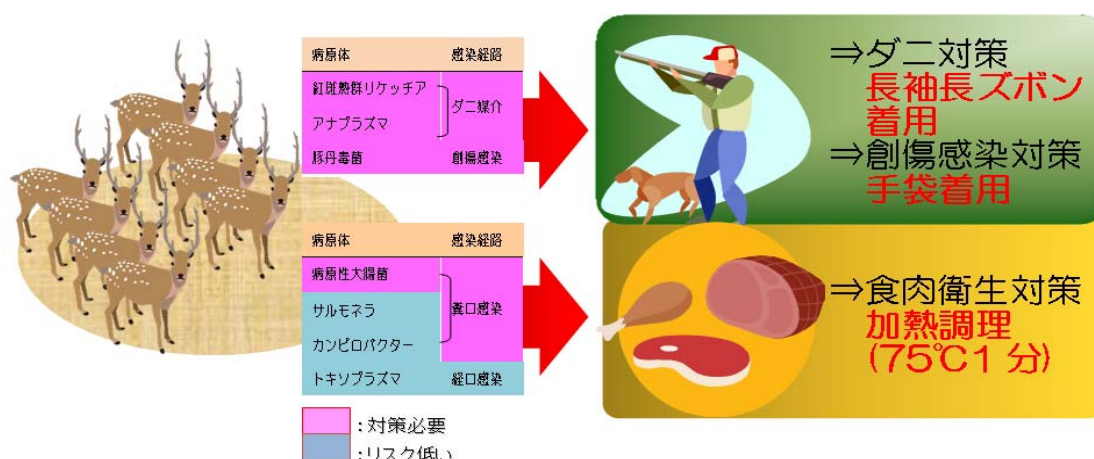


図 シカから感染する病原体のリスクとその対策

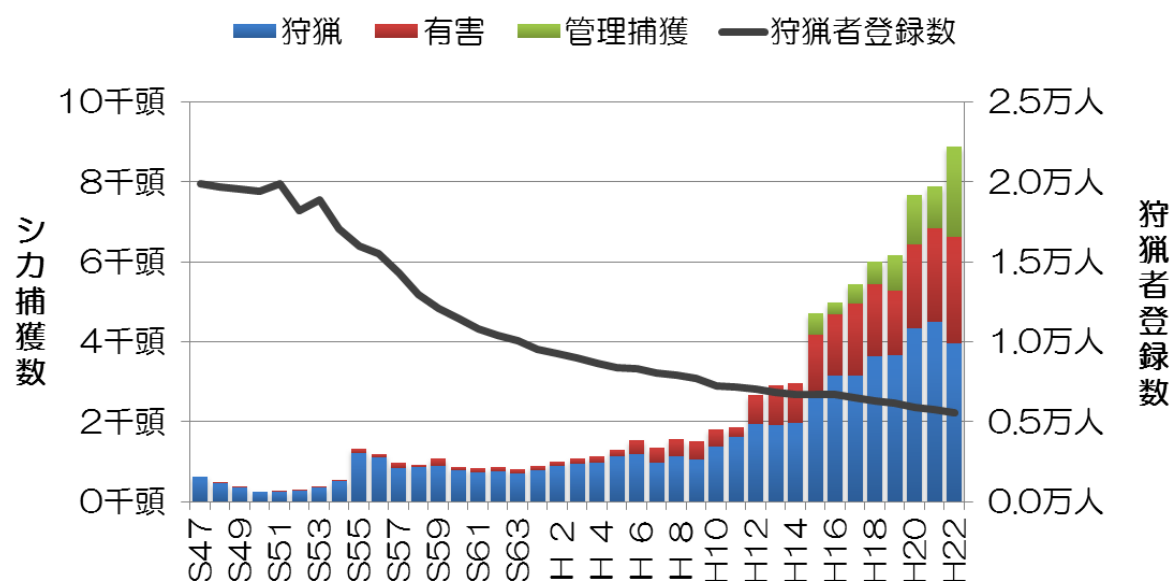
Q16. 1年間にシカは何頭捕獲されているの？

A16. 静岡県内では約9千頭（平成22年度）のシカが捕獲されています。捕獲数は年々増えています。

静岡県では、まず、ニホンジカが高密度化した伊豆地域を対象に平成16年に鳥獣保護法に基づく「特定鳥獣保護管理計画」を策定し、個体数を削減するため、狩猟規制の緩和や県の事業による捕獲を開始するなど、捕獲数を増やす対策に取り組んでいます。

そのため、狩猟者（ハンター）は減少していますが、シカの捕獲数は増えています。ただ、子を生子を産み個体数を増やすメスの捕獲割合が低く、個体数の削減が進まない問題が生じています。

富士山でも、国有林内を中心にニホンジカが高密度化しており、県では、この地域のニホンジカについて、平成24年度からの特定鳥獣保護管理計画を新たに策定して、対策に取り組んでいます。



静岡県におけるシカ捕獲数と狩猟者数の推移

Q17. 被害を防ぐために効果のある捕獲の仕方は？

A17. 被害現場で加害ジカを捕獲することが重要です。

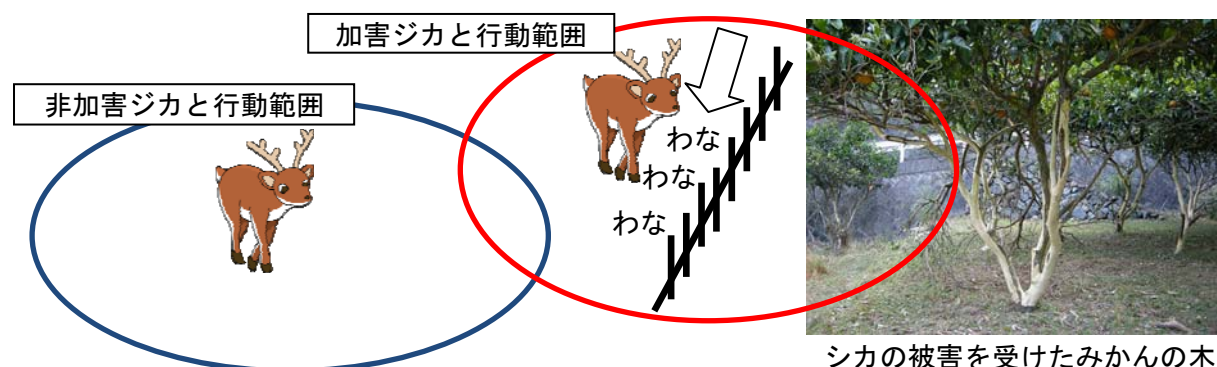
被害地で複数のシカの行動を追跡調査した結果、耕作地を利用しているシカと利用していないシカがいることがわかりました。

また、季節移動を行わない伊豆地域のシカは、平均で約54haと狭い範囲で生活していることがわかりました。このことは、加害するシカは被害地に近い場所で生活していることを示しています。

さらに、1頭でもシカが生息していることで森林や作物によっては深刻な被害が発生することがわかりました。

これらのことから、被害を防ぐための捕獲では、被害地周辺で加害するシカを捕獲することが重要と考えられます。

加害ジカは夜間出没することが多いですが、夜間の銃による捕獲は法律（鳥獣保護法第38条）により禁止されているため、夜間でも捕獲が可能な「くくりわな」や「箱わな」を被害地の周りに掛けることが加害ジカを捕獲するためには有効な方法といえるでしょう。



被害を防ぐために有効な被害地周辺でのわなによる捕獲

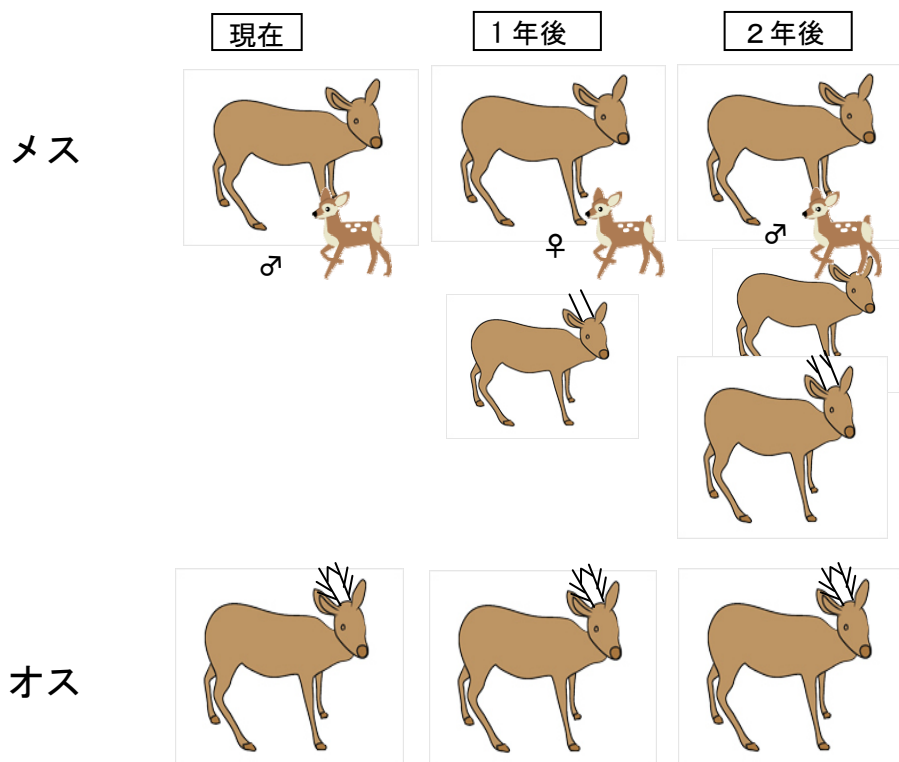
Q18. シカを減らすために効果のある捕獲の仕方は？

A18. こどもを産むメスを重点的に、また、増える数以上に捕獲することが重要です。

シカは、餌条件がよければ2歳から出産し始め、ほぼ毎年出産を行って、毎年1.2~1.3倍（5年で約2倍）に増加します。

また、1夫多妻の社会を持つため、オスをいくら捕獲しても、残ったオスがメスと繁殖できれば、生まれてくるこどもの数は変わりません。

つまり、シカを減らすには、こどもを産むメスを重点的に、また、増える数以上に捕獲することが重要です。



将来の個体数増加に大きく関わるメスとオスの違い

Q19. シカを捕獲するにはどんな方法があるの？

A19. 銃による捕獲とわなによる捕獲があります。

銃による捕獲

⇒巻き狩り猟

一定のエリアを複数の射手が囲んでから、人（勢子）と猟犬が中のシカを追い出し、待ち構えていた射手が射撃する方法です。

⇒追跡猟

新しい足痕などの痕跡を追っていき射撃する方法です。

⇒待ち伏せ猟

餌場など、シカが通う場所で待ち伏せて射撃する方法です。

⇒忍び猟

餌場など、シカが好む場所に忍びよって射撃する方法です。

⇒流し猟

車等で移動しながらシカを探し、見つけたシカを射撃する方法です。

わなによる捕獲

⇒箱わな（囲いわな：上部がないもの）

餌で餌付けて箱（囲い）型のわなの中までシカを誘引し、箱（囲い）の中に閉じ込める方法です。

⇒くくりわな

けもの道に円形に広げたワイヤー（下に穴を掘る）を設置し、シカが中を踏むとばねの力でワイヤーを締め上げ、足をくくる方法です。



巻き狩り捕獲



箱わなによる捕獲

Q20. シカを捕獲するために必要な資格や手続きは？ 掛かる費用は？

A20. 「狩猟免許」を取得する必要があります。

鳥獣保護法（「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」）では、鳥獣の捕獲は「狩猟」と「許可に基づく捕獲」に区分されます。

「許可に基づく捕獲」には、被害防止のための「有害捕獲」と個体数を調整するための「管理捕獲」等があり、「有害捕獲」の許可は、主に市町長が行い、「管理捕獲」の許可は県知事が行っています。

いずれの捕獲でも、狩猟免許（免許区分：わな猟、網猟、第一種銃猟「装薬銃及び空気銃」、第二種銃猟「空気銃」）を取得する必要があります。

また、狩猟を始めるまでに必要な手続きと費用は、下記のとおりです。
（ただし、費用は平成25年3月現在）

●狩猟免許の取得

狩猟免許試験（5, 200円 別に医師診断書、写真費用）

●銃所持許可 28, 600円（別に射撃教習費用）

●狩猟者登録

手続き料 1, 800円

狩猟税 ・わな猟の場合 8, 200円

・銃猟の場合 16, 500円

このほか、戸籍抄本・住民票代、ハンター保険料、銃やわなの購入費用、弾代等が必要になります。

狩猟免許や管理捕獲に関する問い合わせは、県くらし・環境部自然保護課又は最寄りの県農林事務所森林整備課にお願いします。

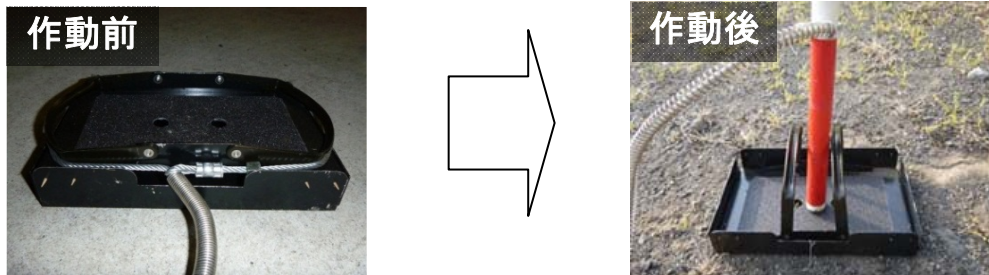
有害捕獲に関する問い合わせは、各市町の担当課にお願いします。

銃所持許可に関する問い合わせは、県公安委員会までお願いします。

Q21. シカの捕獲は難しい？ わな捕獲後に安全に止める方法は？

A21. くくりわなによる捕獲とプレチャージ式空気銃や
保定用補助具の使用で安全な止めさしが可能です。

▼初心者でも簡単 くくりわな横ばねガイド式「静岡仕様」
ひとりでも始められる捕獲方法として、わなによる捕獲があります。
当センターでは、数多くのわなの中から、シカの捕獲に適したものを選
出し、改良を加えたくくりわな横ばねガイド式「静岡仕様」を開発しま
した。熟練者、初心者をお問はず、扱いやすいのが特徴です。



横ばねガイド式くくりわな「静岡仕様」

▼安全な止めさし方法

エアータンクにより、高圧に空気を充填することで強力な威力を発揮で
きるプレチャージ式空気銃で、10m 前後離れたところから頭（脳）を射撃
し、とどめをさすことができます。

また、接近して刺殺・撲殺・電撃器等により止めさす場合には、直接突
進されることがないように、必ず立木を間に挟んで接近し、保定用補助
具等で動けないように保定することが重要です。



プレチャージ式空気銃



保定用補助具

詳しい内容については、「シカ捕獲ハンドブック」をご覧ください。

Q22. シカがたくさんいるところを探す方法は？

A22. 広い範囲からシカが多い場所を探し出すには、夜間スポットライトによるライトセンサスが効率的です。

広いエリアからシカが多い場所を探し出すには、夜間に車で走りながら、スポットライトで探すのが効率的です。後日周辺でシカ道（足あとが集中しているところ）などを探してみましょう。

ライトセンサスを定期的に行うことでどの季節にどの場所にシカが多いか、地域のシカの出没状況が明らかになります。

また、捕獲したシカの胃袋の中身を調べることで、その季節のシカの主な餌（つまり、どういう環境を利用しているか）が明らかになります。



ライトセンサス用のスポットライトとライトに照らし出されたシカ



捕獲したシカの胃袋の中の様子



シカが夜間たくさんいた場所に
残っていたシカ道

Q23. 捕獲の効率を高める方法は？

A23. 給餌による餌付けや、柵等で利用場所や移動場所を制限するなど、シカを特定の場所に誘引、誘導することで捕獲の効率を高めることができます。

餌が少ない冬期には、アオキやトベラなど各地域でシカが好む常緑樹の生葉や、固形に圧縮した乾燥牧草（ヘイキューブ）等の人工飼料でシカを誘引し、餌付けることができることがわかりました。

餌付けることで、同じ場所で射撃やわなにより、効率的に捕獲できます。

しかし、配合飼料、乾燥トウモロコシ、ヌカなどは、イノシシやクマなどの動物も誘引してしまうため、シカの誘引餌には適していません。

柵を設置してシカの利用や移動場所を制限し、誘導先にくくりわなを集中的に掛けて捕獲することで効率的な捕獲が可能です。



給餌場（トベラの生葉）に集まるシカの群れ



柵沿いに続くシカ道と柵沿いに掛けたくくりわなに掛かったシカ

Q24. シカ肉の特徴は何ですか？

A24. 牛・豚・鶏肉と比較して鉄分、たんぱく質などの栄養素を多く含み、コレステロール含量が低い肉です。

シカ肉の特性から、生活習慣病や女性に多い潜在的鉄欠乏性貧血を予防する食品として期待されています。

シカ肉はまだ一般的ではありませんが、平成23年に伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」が設立され、適切に処理されたシカ肉が伊豆市内の店舗で購入できるようになりました。その他、静岡市、浜松市などでも購入できる店舗があります。静岡県では、シカ肉の有効活用のために、「ふじのくに食の都づくり仕事人」と連携し、料理のレシピを作成し、県ホームページ (www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-325/index.html) で公開しています。

肉以外にも、皮はセーム皮、袋角は漢方薬などに利用されています。



イズシカ問屋の外観



加工された肉



シカ肉料理の一例